

研修4日目。早いもので、ボストンでの研修は折り返しを迎えました。昨日から始まった英語クラスですが、本日は本格的なレッスンが始まりました。とはいえ、日本の授業とは勝手が異なります。配られたテキストはほとんど開かず、ディスカッションが中心です。他国の留学生は、先生が話し始めるのと同時にどんどん自分の意見を言っていきます。最初は圧倒されていた中部生でしたが、徐々にクラスの中でも立ち位置を見出していったようです。「とにかく考える前に手を挙げる!」「うちのクラスにはウクライナ人が一人しかいないから、その子にひたすら話しかけている」昨日まで様子見をしていた全体が、少しずつ変わり始めました。それはクラスの中だけではありません。全体で集合する時、昨日までは団長や各班の班長を頼りに動いている様子が見えましたが、本日はあちこちから声が飛び交います。「もう時間だから並ぼう」「みんないる?」「もっと詰めて!」何となく他人任せで、言われるがままに動いていた時もありましたが、今日は違います。皆の表情が、動きが、どこことなく引き締まってきました。

本日午後のアクティビティは、ハーバード大学キャンパスツアーです。案内をしてくれるのは、ハーバード大学の学生マディさん。ツアーはハーバード駅に近いダドリーハウスの前から始まりました。学生寮に取り囲まれた中庭（オールドヤード）には、赤レンガで作られた学生寮が立ち並びます。ここでマディさんから大学の歴史を教えて頂きました。オールドヤードを抜けると、次に訪れたのが **Science Center** です。ここには、1937年に大学院生が開発したアメリカ発のプログラム式コンピューターが展示してあります。大学にはどのような専攻があり、何を学べるのか。まだ少し慣れないネイティブな英語にくらいつき、真剣に聞き入ります。南北戦争の犠牲者を弔う為に建立されたメモリアルホールの内部に入り、（1年生が使う食堂は映画ハリー・ポッターで出てくる食堂のようなデザインです）世界有数の蔵書を誇る、ワイドナー図書館に行き、ジョン・ハーバード像の前に移動しました。この銅像のつま先に触ると幸運が訪れると言われています。ひっきりなしに訪れる観光客は、皆一様につま先をなでています。もちろん中部生も例外ではありません。マディさんは、この像にまつわる「三つの嘘」を説明してくれました。あっという間のキャンパスツアー。皆でマディさんに別れを告げましたが、「まだまだ聞きたいことがある!」と言わんばかりに、マディさんの周りに集まり、彼女に質問を浴びせる中部生達でした。

キャンパスツアー終了後、夕食までに時間があつたので、駅の近辺で散策をすることになりました。大学生協に行って、ハーバード大学グッズを買ったり、英語の本を買ったり、家族のお土産、部活の後輩に渡すお菓子など。わずかな時間ではありましたが、古き良き面影を残すキャンパス周辺を満喫しました。

ハーバード大学から帰り、イブニングアクティビティはスポーツとクイズ、カラオケでした。ボストン大学の運動施設は、非常に充実しています。バスケやテニスのコートはもちろん、飛び込みも出来るプール、フィットネスジム、ボルタリングやスカッシュなど。近代的で綺麗な施設は、まるでスポーツのテーマパークのようでした。クラスで共に学ぶ留学生と汗をかき、大いに笑いました。未だ続く時差ボケや日中の暑さによる夏バテ、慣れない食事によるちょっとした胸焼けなど、なんとなく調子悪いな...という気分が吹き飛ぶほどに、体を思いっきり動かしました。一方のクイズ&カラオケ大会では、元気の良いポルトガル人が率先して盛り上げていました。レッスン中もそうですが、ここでも「自分の歌を聞いて!」と、強い自己主張でぐいぐいきます。とうとう「あなたも歌って!」と中部生にもマイクが渡ってきました。戸惑いながらも、徐々にコミュニケーションが取れるようになってきています。慣れ親しんだ日本の文化と違う行動を取る留学生に、最初は驚き、呆れ、腹が立つこともありました。他国の文化を受け入れるのは容易なことではありません。身を持って体験した経験があるからこそ、こうして一緒に笑い楽しむことが出来るようになった変化に驚きます。新しいことを吸収できる柔軟性は、さすが中部生です。以上、本日のご報告とさせていただきます。

男同士のランチ



国を超えた女子会



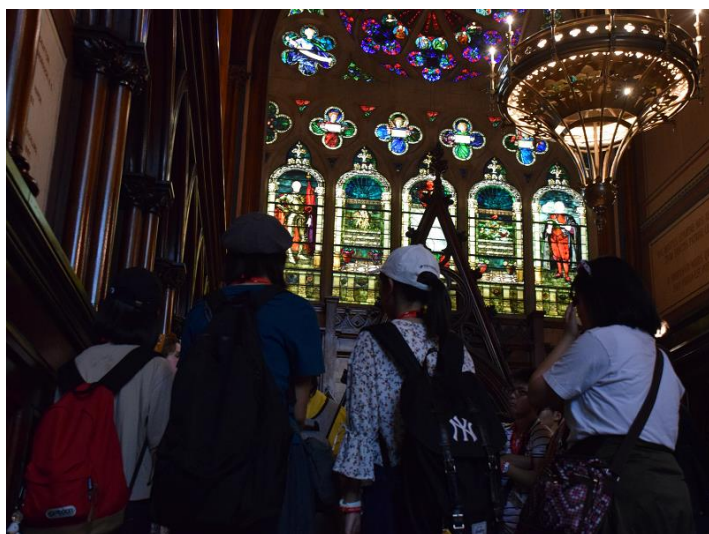
マディさんのキャンパスツアー



サイエンスセンター



メモリアルホール



ワイドナー図書館

